

北海道における サイクルツーリズムの推進に向けて

国土交通省北海道開発局
建設部 道路計画課

北海道開発局では「世界水準のサイクリング環境」を構築することを基本方針として、北海道庁とともに、北海道の魅力を活かしたサイクルツーリズムの推進に向けた試行の取組を進めている。モデルルートの設定やサイクルラック設置といったサイクリスト支援策など、平成29～30年度にかけて実施した試行の取組と、今後の本格運用に関する方針等について報告したい。

1 背景と経緯

北海道開発局では、第8期北海道総合開発計画（平成28年3月閣議決定）に基づき、2050年までの長期を見据えつつ、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として育成し、豊富な地域資源とそれに裏打ちされたブランド力など北海道が持つポテンシャルを最大限に活用することにより、「世界の北海道」を目指した取組を進めています。

戦略的産業の一つとする「観光」については、豊かな自然環境、雄大な自然景観や農村景観、多様で魅力的な食文化、冷涼な気候など、アジアの中でも特徴的な観光資源に北海道は恵まれており、近年では来道外国人観光客数が全国を超える伸び率で増加しています。

その一方、来道外国人観光客の宿泊地の多くが道央圏に集中しており、インバウンド観光による経済効果が地方部へ十分に波及していないことが課題となっています。

そのため、各地域におけるそれぞれの地域資源を活かした魅力ある観光地域づくりと併せて、旅行者を道内各地域に分散・周遊させる取組が必要となっており、北海道の雄大な自然や景観を体験しながら、広大な地域を周遊できるアクティビティとして、サイクリングへの注目が高まっているところです。

第8期北海道総合開発計画では、北海道の観光資源を活かしながら「世界水準の観光地」を目指すべく、サイクルツーリズム等の振興等により、広域的な観光周遊ルートの形成を促進することとされています。

また、自転車活用推進計画（平成30年6月閣議決定）では、「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」を目標として、「ハード・ソフト両面から世界に誇るサイクリング環境の創出を目指す」こととされています。

これらを踏まえ、北海道開発局では「世界水準のサイクリング環境」を構築することを基本方針として、北海道庁とともに、北海道の魅力を活かしたサイクルツーリズムの推進に向けた試行の取組を進めることとしました。

2 試行の取組の実施

(1) 学識者・有識者による検討委員会の設置など

北海道はサイクリングを楽しむ環境として非常に恵まれた地域で、我が国のサイクルツーリズムを先導するポテンシャルを有しており、これまでも道内各地域でサイクルツーリズムに関する様々な取組が行われてきましたが、世界水準のサイクリング環境の構築に向けては、関係機関のより一層の連携・協力が求められています。

また、北海道の魅力を活かしたサイクルツーリズムを推進するため、以下の4つの視点から専門的な見地を踏まえた検討が必要となりました。

- ① 受入環境の充実
- ② 自転車走行環境の改善
- ③ 情報提供・サイクリストとのコミュニケーション
- ④ 持続的に取組を進めるための体制や役割分担

表1 北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会

【委員長】	萩原 亨	北海道大学大学院 工学研究院 教授
【委員】	菅井貴子	気象防災キャスター
	高橋 清	北見工業大学 地域未来デザイン工学科 教授
	原文宏	シーニックバイウェイ支援センター
	宮内 忍	NPO法人日本風景街道コミュニティ （「サイクルスポーツ」元編集長）
	屋井鉄雄	東京工業大学副学長 環境・社会理工学院 教授

※敬称略【事務局：北海道開発局・北海道】

そのため、市町村など関係機関や民間団体との連携による検討体制を構築するとともに、先進他地域の取組等も踏まえつつ、専門の見地から審議を頂くため、平成29年2月に学識者・有識者による「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会」（以下、検討委員会）（表1）が設置されました。

検討委員会では、「世界標準」、「世界最高水準」の2つのキーワード（図1）を念頭に、各地域における試行の取組を踏まえた課題の抽出や、それらの解決に向けた検討が行われました。

(2) モデルルートの設定および試行内容の検討

今回の試行の取組では、5つのモデルルートが設定されました（図2）。これらのモデルルートの設定にあたっては、道内全自治体にヒアリングを実施し、既に取り組を行っている地域であること、モデルルートの試行に協力を得られる活動団体が存在すること、また市町村をまたぎ広域で連携する骨格となるようなルート（基幹ルート）を設定できることを踏まえ抽出しました。これらのモデルルートでの試行の取組のもと、受入環境の充実などに関する諸課題の解決に向けた検討が行われました（図3）。

世界標準 ➡ すべてのモデルルートが満たすべきもの
 (世界のサイクリストが安全かつ安心してサイクリングできる走行・受入環境)

- ルートの案内看板が設置されている
- 安全に走行できるための空間が確保されている
- 休憩施設、トイレが一定間隔で存在し、サイクルラックや工具類が設置されている
- ルートの情報が提供されている(ITの活用) 等

世界最高水準
 (北海道のポテンシャル活用) ➡ 地域の特徴を活かして磨くもの

- 豊かな自然環境や雄大な景観、食、冷涼な気候という我が国を先導する北海道の優位性を活かした体験が可能
- サイクリストが満足する“サイクリストウェルカム”な地域が形成されている(ホスピタリティ)
- ここ(北海道・各ルート)でしか味わえないことを世界にアピール



図1 サイクルツーリズム推進に向けたキーワード

図2 試行を行った5つのモデルルート



図3 北海道のサイクルツーリズムの推進に向けたモデルルート試行の概要(平成29~30年度)

(3) モデルルート試行による取組事例

a 立ち寄り施設でのサイクルラック等の設置

道の駅や空港などの立ち寄り施設に、サイクルラックや修理工具・空気入れ等を設置するなど、自転車利用者を支援する取組を実施しました。

◆サイクルラック設置事例



石狩川流域圏ルートの道の駅ライランドふかがわ



きた北海道ルートの名寄市駅前交流プラザ よろーな

◆修理工具・空気入れ設置事例



トプチ400のSakura Terrace



十勝川温泉観光ガイドセンター

b ツアーイベントの実施

各モデルルートでツアーを実施し、多くの参加者から意見をいただきました。また、海外から来られた方を対象にしたモニターツアーも実施しました。

◆ツアーイベント実施状況



きた北海道ルート



富良野・占冠ルート

◆イギリスからのモニターツアー実施状況



阿寒・摩周・釧路湿原ルート



c 多様なモビリティの活用

自転車だけではなく、路線バスや鉄道など様々なモビリティとの連携のもと、観光ルートの確立に向けた取組を実施しました。

◆バス車内への自転車持ち込み事例



きた北海道ルート

◆自転車やカヌーなどで周遊する新しい旅行の可能性を探る取組事例



きた北海道ルート

d 河川を利用したルート設定

道路管理者と河川管理者が連携し、河川堤防を利用したサイクリングルートを設定しました。また、ミズベリング北海道と連携し、地域の魅力を発信するイベントを実施しました。

◆河川堤防を利用したサイクリングルート



石狩川流域圏ルートの石狩川



きた北海道ルートの天塩川

◆ミズベリング北海道のイベントとの連携



石狩川流域圏ルート



e 案内看板の設置試行

サイクリストが迷わず安心して走行できるよう、案内看板をサイクリストから見やすい場所に設置し、視認性やわかりやすさ等について検証しました。

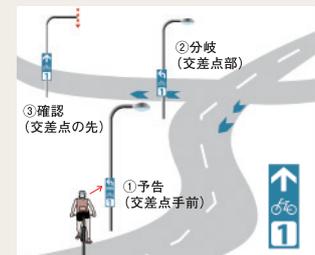
◆案内看板を地域の方々と共に設置した事例



中川町



◆案内看板の設置イメージ



f 情報提供・サイクリストとのコミュニケーション

コミュニケーションサイト(<https://cycle-hokkaido.jp>)を開設し、各モデルルートの地図や高低差、おすすめのビューポイントや休憩施設などのスポット情報をサイクリストへ提供するとともに、サイクリストからの評価・意見を投稿いただきました。

◆コミュニケーションサイトの画面表示例



地図・高低差の表示/現在位置の表示や、評価・意見の投稿

そして本提言を受けて、アジアの中でも特徴的で魅力的な北海道の観光資源を活かしながら、サイクリングを楽しめる環境を高めるとともに、官・民をはじめ多くの関係者が連携・協働する取組を道内で本格展開していくため、関係機関の参加のもと、令和元年8月19日に「北海道サイクルルート連携協議会」が設置されました。

本連携協議会では、設置に当たり策定された「北海道のサイクルツーリズム推進方針」(図4)に則り、本協議会と連携・協働し、質の高いサイクルツーリズムを提供いただく「ルート協議会」の募集を開始しております。

今後も、オール北海道で、世界水準のサイクリング環境の構築に向けて鋭意取り組んでまいります。

表2 検討委員会による提言の概要

項目	提言の概要
北海道のサイクルルートの考え方	広域に渡り都市間を移動する基幹ルートと、地域の魅力を巡る地域ルートで構成
サイクルツーリズム環境の向上策	受入環境、走行環境、情報発信において満たすべき水準や改善策をとりまとめた
持続的な取組のための体制	各ルートの関係者による協議会と、それらを連携し全道的な立場で取り組む協議会が必要

3 今後の推進方針

今回の2年間の試行の取組を踏まえ、検討委員会での審議を経て、世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向けた「提言」がまとめられました(表2)。

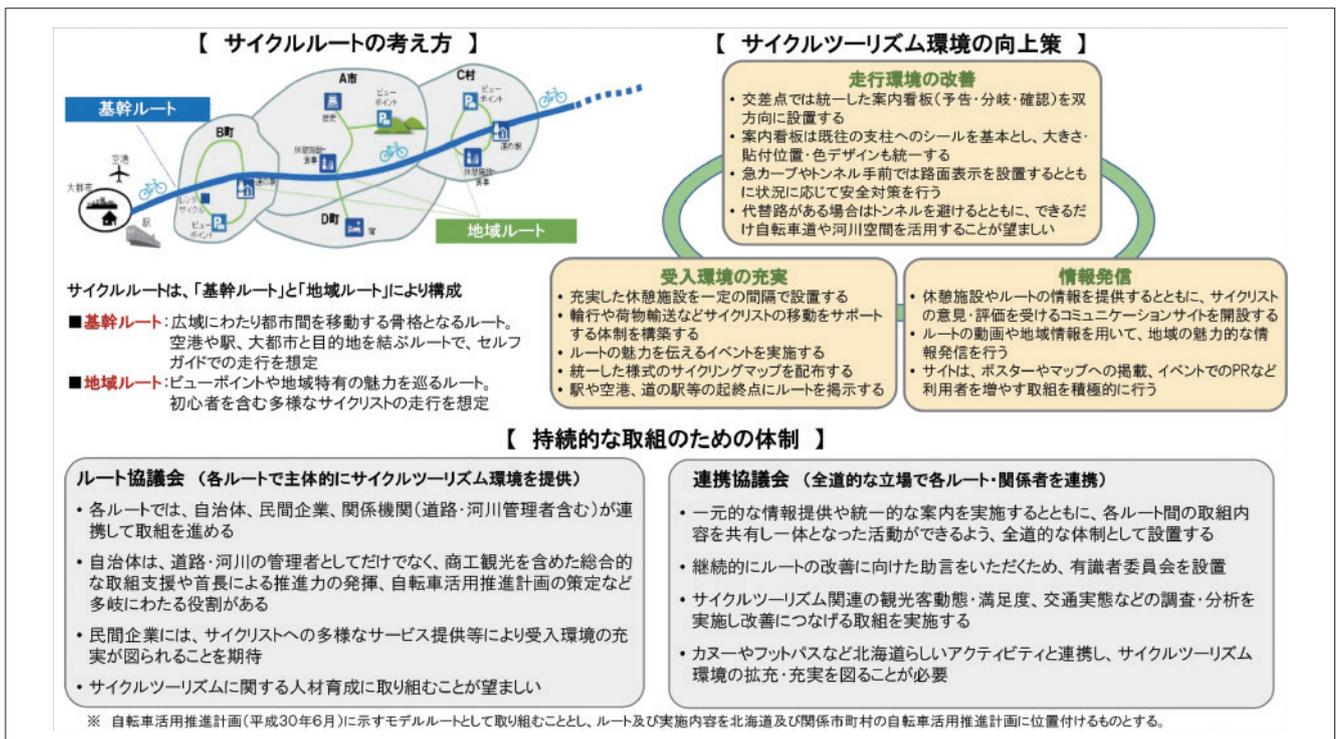


図4 北海道のサイクルツーリズム推進方針の概要